

教育方針	私学は、建学の精神に則り、常に最先端の教育を行わなければならない。 校訓である「誠実・協和・勤勉」の教えに従い、常に誠実な姿勢、協和を尊ぶ心、何事にも勤勉な態度を身を以て実現し、それを生徒達に還元すること。 生徒・保護者には誠実に対応し、教育者としての尊厳を保ち、何事にも決して安易に妥協しないこと。
教育目標	多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成。 良識ある母親として地域社会に融和できる女性の育成。
重点目標	女子に特化したキャリア教育を展開するべく、全職員でその実現に取り組む。 本校教育の根幹を成す小笠原流礼法を常に念頭に置いて立ち居振る舞い、生徒たちの見本となるべく精進する。 「新しい生活様式」に則した教育活動、学校生活を構築する。 オンライン授業のためのスキル習得に努める。

校務分掌	重点目標	重点目標に対する方策	評価	総合評価	今後の課題
普通科	CAREER HAND BOOK を活用し、自己管理能力を高めさせる。	キャリアデザイン科で実施している内容を担任と共有し、生徒へ声がけを行い、HR等で活用する。	A	A	手帳活用は生徒間による差が大きく、自己管理する上で欠かせないものとなる生徒がいる一方、全く活用しない者もいる。タブレットとどのように使い分けるかも検討の余地あり。校外活動については、感染症を克服するまでは、オンラインによる活動機会を創出するしかないと考える。オンライン指導に関しては、すべての教員が一定程度できるようになっているので、質の向上が課題である。
	生徒自身がキャリアを考える機会として、校外での活動や地域社会で活動する機会を増やす。	多くのボランティアを紹介したり、セルフインターンシップなどへの取り組みを促す。	—		
	感染拡大防止のための臨時休業の影響を、最小限にとどめる。また、再度の休業に備え、オンラインで指導を行う仕組みを構築する。	Teams、Classi、moodle 等のサービスを使って、生徒・保護者に本校との繋がりを感じてもらえるよう、クラス担任・教科担任先生をサポートする。	A		
家政科	茨城県高等学校教育研究会家庭部会での活動を通して、一人一人の教員がスキルアップを図り、生徒の教育活動に反映させる。	生徒一人一人の課題を把握し、多様な能力・適性、興味・関心などに応じて指導助言する。 ICTを活用し、生徒の活動を外部へ発信していく。 生徒の作品を県政広報コーナーへ展示する。	A	A	生徒一人一人に対し、個別に指導助言をした。また、教育活動においてもICTを活用し、生徒たちにわかりやすい授業作りを行った。  各学年、目標とする検定については、個人の能力に合わせ、実技等の補習実習をし、実習時の事故防止を徹底して行った。  異年齢交流は、今年度、コロナ禍のため実施できなかったが、来年度は、感染予防対策をしっかりと行い、状況を見ながら進めていきたい。  専門家の外部講師の授業も、限られた回数しか実施できなかったため、今後、実施方法など検討しながら取り入れていきたい。  今年度は、コンテストの開催自体が中止されたものが多くあった。募集のあったコンテストには、出来る限り応募した。今後も、引き続き、生徒へコンテスト応募を促し、生徒の学習意欲を育成していく。
	各学年、選択コースにおいて、目標とする技術検定試験に100%合格させる。	検定の課題と評価について教員間で共有し、研鑽を積む。 生徒個人の能力に合わせ、実技等において補習授業などを行う。 実習では、事故防止の指導を徹底し、安全と衛生に十分留意する。	A		
	地域における異年齢交流を通して、地域との連携強化に努める。	五軒小学校のミシン実習の補助をさせるなど、異年齢交流を実施し、地域との連携を図る。	—		
	未来のフードデザイン、ファッションデザインのスペシャリストを養成する。	専門家の授業を受けさせることで、高度な技術を身につけさせ、各分野のスペシャリストを養成する。	A		
	生徒自身が実力を発揮できるよう、コンテスト等への応募を促す。  SNS等による発信を活発にし、本校の活動を外部へアピールする。	コンテスト等への応募を推進し、生徒の学習意欲を育成する。  月1回、SNSを利用し家政科の様子を発信していく。	A		
看護科 (高校)	自学自習できる生徒の育成を目指す。 朝学習、家庭学習時間の確保(平日2時間、休日3時間以上)をする。	動画による反転授業を行い学習への意識づけを行う。 Classi、スクールワークを用いた小テスト・課題を提示する。 Classiの学習記録を用いPDCA サイクルの定着を図る。 eポートフォリオで日々の学習や模擬試験の振り返りを行い客観的に自己の課題を見いだせるよう指導する。	B	A	1・2年生の基礎看護技術においてはタブレットの活用ができた。実技科目であることから動画の視聴や生徒自身の実技を動画に収め振り返りの学習を進め学習効果を高めることができた。またClassi、スクールワークからの課題配信や振り返りを行うことでICTの利活用することができた。そのことからポートフォリオの蓄積ができた。反転学習を各教科で行うことにより自学自習ができるよう生徒の意識に働きかけることができたと思われる。また自己の課題への取り組みについては確認できるような手立てを工夫する必要がある。  各学年とも家庭との連携、生徒からの報告の習慣化を心がけ生徒指導を少なくできるように取り組んだ。コロナによる臨時休業から身体面・精神面への細やかな配慮を必要とした。在籍数の1.5%が進路変更となり、さらにきめ細やかに生徒への全体指導、個別指導を繰り返し行う必要がある。納得した上での進路変更に導けるよう家族との連携も必要である。
	生徒指導・進路変更の生徒をなくす。 (生徒指導・進路変更数共に年度当初在籍数の10%以下とする。)	生徒・家庭・学校間の連絡をClassiを活用し密にする。 報告・連絡・相談の習慣を定着する。 学期ごとに生徒心得を確認する。 長期休暇中、ボランティア活動に参加する。 生活指導は繰り返し行う。			

看護科 (専攻科)	2020年度修業生全員の看護師国家試験合格を目指す。	過去5年の国家試験問題を完全に実施する。(Classi活用) 自己学習・グループ学習を促進する。 成績低迷者への個別指導を強化する。 校外・校内模試結果を分析する。(模擬試験業者のデータとWeb復習活用)	A	A	模擬試験の結果分析から徹底した個別指導・面接指導を行った。年度途中からのグループ学習は成績低迷者の成績を上げる一つの方法として効果が見られた。コロナによる不安を訴える生徒もおり励ましながら試験を受験することができた。結果は修了生全員が合格となり引き続きこの方法を継続していく事が必要と思われる。
	地域に貢献する看護師の養成を目指す。 (県内就職率90%以上、内80%以上は実習病院への就職とする。)	5月までに実習病院関係の就職・奨学金説明会を開催する。 実習病院入職卒業生との懇談会の実施やビデオレターによる交流を図る。	A	A	今年度は県内就職者100%、実習病院への就職90%となり目標を達成することができた。この事により本校の看護師の養成が地域に貢献していると考えられる。
教務部	本校教育目標・努力目標の達成のために、教育活動および校務の円滑な運営を目指す	・単位時数に見合う授業時数を90%確保する。 ・行事の特定日への偏りを100%解消する。	A	A	授業時数の確保、行事日程・展開場所の重なり防止など、できて当たり前であるが継続して取り組むものである。次年度の行事予定作成時、行事の曜日分散を意識し偏りを少なくした。実施願いの直前提出は相変わらずなので今後も早期提出の呼びかけを繰り返す。  会議資料をPDFでの提供はほぼ定着した。今後は、後日検索しやすいようにPDFの保存場所の検討が必要である。
		・行事日程、展開場所などの重複防止を100%にする。 ・試験日程2週間前発表実施 100%	A		
		・スクールマスターの使い方を周知させる ・各種用度品・消耗品等の節約 ・会議資料のPDF化で用紙代を節約する ・Teamsの活用を検討する 例えば会議資料を掲載するなど	A		
学習指導部	学習習慣アンケートにおいて「毎日学習する」という回答を60%以上とする。	・1、2年生はさららの活用を推進する方策を検討、実施し、自己学習を促す。 ・宿題はするという生徒が多いため、宿題の出し方などを各教科に工夫してもらうとともに、回数を増やす。	A	A	1月末現在「毎日学習する」と回答した生徒の割合は、60%以上で目標を達成することができた。しかし、データから「毎日学習する」と回答した生徒の学習内容は「宿題はする」が3割以上を占めている。宿題がないと学習しないと考えられる。学習習慣を改善するためには、まずは宿題は毎日出すよう教員側が改める必要がある。  1月末実力診断テストにおいて、D2ランク以上の生徒は70%を超えており、目標は達成できた。しかし、全体としてDランクの生徒がまだまだ多数いるので、更なる学力アップのためには担任から学習状況の確認を頻繁に行うなど、注意が必要である。また、ベネッセアセスメント指導の強化としてD3以下の生徒の学習サポートを週1で実施する計画を立てている。学習支援センターの活用も促したい。進路指導部と連携し、進路決定に向けての意識付けを行うなど、特に2年生への指導を強化するため必要がある。
	ベネッセアセスメントにて、D2ランク以上の生徒を70%以上とする。	・授業、遠隔授業等におけるICT活用について、教員の技術力、授業力アップを図るため必要に応じて研修を実施。教員が負担に感じない学びの場を提供するため、短時間の研修回数を増やす。 ・アセスメント結果をこれまで以上に具体的に共有し、担任や学年からの声かけを頻繁に行う。 ・主体的な研修を行えるよう、研修方法を工夫する。 ・結果に合わせて生徒を指導する機会をつくる。	A		
入試広報部	Web出願導入など受験制度の工夫により受験者増につなげる。	より受験しやすい環境を整える。	A	A	推薦入試や一般入試の特待生などの合格目安を募集要項に示したことが一定の効果があったように思う。特に推薦での評定目安は単願受験者増につながる。今後、より広く認知されていくとさらに効果的になると思われる。大成女子のイメージは定着しつつある。学力中間層を中心に、今後も家政科・看護科の特性を生かしながら募集活動をすべきと考える。教育内容の広報活動や配布物の準備は十分だと思われるが、受験者や教員(塾含む)との接点は他校に比べて少ない。改善すべき余地がある。
	大成の長所を伝え、生徒数増につなげて本学全体の発展に努める。	普通科・家政科・看護科の3学科の特性を広報する。	A		
	各教科・学科の具体的なiPad活用方法など本校教育の特長を広く広報する。	さまざまな行事や広報誌により、中学校・受験生との接点を多くする。	A		
厚生部	新型コロナウイルス感染拡大防止対策に務める。 生徒の健康の保持増進を図る。 職員の健康診断について結果の改善に努める。	手洗い、マスク着用、検温、換気を徹底させる。 その他新型コロナウイルス感染症についての情報を発信し、注意喚起を促す。 生徒の検診結果を通知文等を利用し、保護者に知らせる。 またClassiを利用し生徒の病院受診、治療を勧める。 「well Being」(保健日より教員版)を年2回発行し、職員の健康に関する情報を伝える。	A	A	12月に行う予定であった2回目のワックス掛けは、全校生徒の自宅待機に伴い中止した。手洗い、マスクの着用など教員、生徒に協力してもらい新型コロナウイルスの感染拡大防止対策は実施できた。来年度も引き続き対策を行う。検温の送信は呼びかけを行った日は増えるが、教員、生徒ともに忘れてしまう場合が多い。新型コロナウイルス感染症予防対策としてお願いする。また、ワクチン接種についての情報を収集し、必要なことは周知に努める。
	学校生活の環境を整える。	年2回、廊下、階段のワックス掛けを委員会で行う。 節電に努める。節電に協力してもらえるように保健便りやClassi等を利用し呼びかける。 清掃時のチェック表を配布する。毎日の清掃を通して、校内の美化に努める。	B		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームルーム活動を通して、多様化する社会に貢献できる自立した女性の育成を目標に自主的な態度や健全な生活態度を育てる。</li> </ul>	<p>①HRや全校集会を生徒の自発的活動の場とし、年に1人1回はみんなの前で発表する。全校集会は、全員で集まる形が不可になる可能性も考え、YouTubeによるライブ中継や、事前に撮った動画の配信などの形を考慮し、事前の計画を生徒会と共に立てる。</p> <p>②奉仕活動の意義を理解させ、特に部活動に加入している生徒をボランティア活動に参加させる方法を進路指導部とともに検討し、実践する。</p>	B	<p>全講習会や学校行事を運営するにあたり、動画中継を行う機会が増えたが、高性能CPUのPC、Webカメラ、高性能のケーブルなど一式ワンセット購入することが必要と思われる。</p>	
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し集団への所属感や連帯感を深め、協和を尊ぶ心を養い、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。</li> </ul>	<p>①撫子祭ではクラスの団結を強め、また地域との交流を深められるような内容を企画する。また、三密を避ける形の開催を検討する。中学生への発信方法を生徒会とともに検討する。</p> <p>②学校行事や撫子祭では生徒の自主性・協調性を養わせ、アンケート調査を実施し所属感や連帯感が深められたかを評価し、満足度を80%以上にする。</p>	B	B	<p>2020年度、スポフェスは休止、撫子祭は限定公開、三送会は3年生のみ、という形だった。コロナのいかんに関わらず、行事・集会をどのような形で行うのがベターか。感染状況とセットの指針・マニュアルが作れると良いのかなあとも思います。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動を通して、良識ある人間として地域社会に融和できる女性を目指すための能力を養う。</li> </ul>	<p>①生徒が部活動の充実と発展に努め、積極的に参加し入部加入率を75%以上にする。6月以降改めて部活動加入の機会を提供する。</p> <p>②部活動を通して地域社会に融和することや、貢献できるように各部で活動計画を立てる。</p> <p>③ブログなどを通じて、各部活動の様子を積極的に発信することを、各部活動に促す。特に、動画による情報の発信の方法を探り、広報に貢献できるようにする。</p>	B		<p>部活動の加入に関しては、個人的には1年時、一度、どこかの部活に所属する形を模索できないかと思う。新しい調査書へ</p>
進路指導部	<p>進路未定のまま卒業する者0名、普通科の大学・短期大学進学者60%(71名)以上、普通科・家政科の茨城女子短期大学進学者20%(28名)以上。</p>	<p>校外の相談会や上級学校のオープンキャンパスを告知し、生徒の積極的な参加を促す。</p> <p>進路資料室や校内掲示板を充実させ、生徒が情報収集しやすい環境をつくる。</p> <p>入試制度や修学支援制度の最新の情報を、生徒・保護者にわかりやすく伝える。</p> <p>HR等での活動を通して生徒に自身の適性を認識させ、受験校選択におけるミスマッチを防ぐ。</p>	A		<p>卒業生の進路状況については、概ね目標を達成できた。国立大学や上位私立大学への、学力による合格者を増やすことが今後の課題である。</p> <p>生徒・保護者への進路に関する情報提供は、一定程度行うことができています。進学・就職とも、コロナ禍の影響も加わって日々状況が変化しており、最新情報をいかにキャッチし提供できるかが課題である。</p> <p>コロナ禍で対面での情報収集が難しくなっているため、これまで行っていた進路関連行事の内容やスケジュールを、抜本的に見直す必要がある。</p>
	<p>生徒が自分の希望する職種や職場を選択し、就職できるよう援助する。</p> <p>就職希望者全員が内定（正規雇用）。</p>	<p>ハローワークと連携し、生徒の希望に応じた就職先を紹介する。</p> <p>課外授業やHR等での活動を通して、生徒に自身の適性を認識させ、職業選択におけるミスマッチを防ぐ。</p> <p>課外授業を通して、履歴書の作成や面接・適性検査への対策を行う。</p>	A	A	
	<p>感染拡大防止のための臨時休業の影響を、最小限にとどめる。また、再度の休業に備え、オンラインで指導を行う仕組みを構築する。</p>	<p>Teams、Classi、moodle等のサービスを使って、生徒・保護者に情報提供を行う。</p> <p>オンライン会議システムを使って、上級学校の広報担当者や企業の求人担当者より、生徒に直接情報を提供してもらう。</p>	A		
生徒指導部	<p>1. 基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しい制服の着用および容姿を整えさせる。</li> <li>正しい言葉遣い、挨拶の徹底化を図る。</li> <li>正しい学習態度を身につけさせる。</li> </ul>	<p>① 学年主任および教員による立哨指導での注意喚起を徹底して行う。</p> <p>② 校内・郊外巡視等の指導を定期的に行う。</p> <p>③ 礼法指導および授業の開始・終了時の挨拶を各教員が指導する。</p> <p>④ 制服セミナーによる制服着用の指導を実施する。</p> <p>⑤ 教員各自が校内で制服の乱れた生徒は躊躇せず言葉をかける。</p>	A		<p>本年度も服装がひどく乱れた生徒はいなかった。しかし、他校でも頭を痛めている靴下を下げて履いている生徒が多くいる。この点を改善していくこと。また、先生方がそのような生徒を校内で見かけた時に注意をしないことが多いので、引き続きことあるごとに先生方にアナウンスしていくこと。以上2点を次年度の課題としたい。</p>
	<p>2. 情報モラルの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNS関連のトラブルの発生を防止する。</li> </ul>	<p>① 情報担当教員との連携を図り、情報の授業だけではなく、関連する全ての授業を通して情報モラルの向上を図るための指導を行う。</p> <p>② 茨城県メディア指導員・警察等による講話指導等を通して注意を呼びかけ、危機意識の向上を図る。</p> <p>③ HR、礼法さらには様々な活動を通して、コミュニケーション能力と他人への思いやりの心を育ませる。</p>	A	A	<p>重点目標に対する方策により、今年度もSNS関係の指導は、1点のみであった。しかし次年度もそうとは限らないので、何か新しい形態の方策を模索し続けていくことを次年度の継続課題としたい。</p>
	<p>3. 教員相互の連携を図り指導にあたる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年間の連携にとどまらず、教員相互の密接な関係を構築することによりスムーズな指導ができるようにする。</li> </ul>	<p>連携を図るため情報の共有化をはかり、教師間での格差のない指導につなげる。</p>	A		<p>朝の立哨等で学年主任と生徒指導部長で話す時間があり、情報の共有、連携はそれにより図られている。しかし、まだまだ全学年が一つのチームとなり指導にあたることが不十分かと思われるので、これを継続課題としたい。</p>

メディア統括部	<p>「元気で活発な学校」「きめ細かい指導をする学校」「特色のある学校」というイメージをつくり、在校生・保護者・中学生・地域・同窓生等に広く伝え、受験者増、入学者増、学校の評価の向上に繋げる。</p> <p>ICT教育環境を整え、学習指導部と連携してICT活用授業の拡充を図る。</p>	<p>ToSay!ブログの更新を週4回以上、YouTubeへの投稿を年6回以上行う。</p> <p>道路沿いの横型懸垂幕を活用し、年間を通して常に掲示できるようにする。</p> <p>リニューアルしたWebサイトの情報更新と、閲覧しやすいレイアウトを検討する。</p>	B B A	B	<p>学校行事が制限される中、可能な限り最新情報の発信を行うことができた。今後もブログの更新、懸垂幕による情報発信も継続していく。合わせて、本校Webサイトでの最新情報の発信とともに、SNSなど他のメディアを使った情報発信を、臨機応変に行うことが今後の課題である。</p>
図書館部	<p>図書室を積極的に利用させ、読書の習慣を身につけさせる。</p> <p>生徒図書委員会の運営を充実・発展させる。</p> <p>臨時休業中の対応を行う。</p>	<p>・生徒・職員が利用しやすい環境づくりを行う。</p> <p>・各分掌、学科・コース、学年と連携し、良書を選定し購入する。また、各教科、学年と協力して読書指導を行う。</p> <p>・ICT機器の正しい利用の仕方と著作権に関する理解を深めさせる。</p> <p>・委員各自が運営方針に沿って活動できるようサポートをする。</p> <p>・図書委員を校外研修会へ参加させる。</p> <p>・選書会議（生徒・職員による）を行い、図書費の有効活用を図る。</p> <p>・臨時休業期間中は、生徒の利用希望に添った図書館運営を行う。</p>	A B A	A	<p>新型コロナ感染防止対策を強化徹底し、分散使用を経て通常通りの運営を行うことができた。</p> <p>密集を常に避け、図書委員の業務内容や作業工程を撮影して動画配信した。この試みにより、生徒の理解が深まり、通常通りの活動ができた。</p> <p>外部研修は参加校の全てがオンラインに対応できないため、中止になった。</p> <p>思考力判断力が問われる入試対策、共通テスト対策に役立てられる教材やデータベース購入を検討し、引き続き、全教員全生徒が利用しやすい環境を整えていく。</p>
1学年	<p>基本的な生活習慣を身につけさせ、規律ある生活をさせる。</p> <p>・安易な欠席、遅刻、早退をなくさせ、年間5回以上の遅刻者数を10名以下にする。</p> <p>基礎学力を向上させるとともに、目標をもった生活をさせる。</p> <p>・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を、学年人数40%以上にする。</p> <p>・各種検定試験の受験を促し、漢検・英検3級資格取得者を学年人数の20%を目指す。（家政科の検定を除く）</p> <p>ICTリテラシーが向上するよう促す。</p>	<p>・面接や適性検査を実施し、生徒の理解に努める。臨時休業期間はTeamsを利用して面談を行う。</p> <p>・挨拶や言葉遣いを大切に、正しいコミュニケーションがとれるよう指導する。</p> <p>・生徒の変化（言動、服装など）に対して早めに対処する。</p> <p>・SHR時に生徒の服装を確認し、正しい服装をさせる。</p> <p>・学習環境の美化に努めさせる。</p> <p>下校時には、机の中及び机の両脇に何も置かない。</p> <p>ロッカーの中を整理整頓する。</p> <p>・毎日の課題（宿題）を通し、家庭学習の習慣及び基礎学力の向上を図る。臨時休業期間は、生徒の進捗状況等を確認するため、Teamsの面談で助言を行う。</p> <p>・朝学習を通して、語彙力を向上させ、社会への関心を持たせ、自己の考えを表現する力を養う。</p> <p>・上級学校の見学、各種ガイダンス、インターンシップへの参加、キャリアデザインの授業を通して、進路意識を高める。</p> <p>・クラスへの諸連絡・学習指導・面談などにClassi、moodle、Teamsを活用するなど、様々な場面でiPadを活用する。</p>	A A A	A	<p>学期ごとに2者面談を実施し、生徒の状況把握に努めた。臨時休業中に保護者とオンライン面談は、相互理解に大変有効であった。</p> <p>生徒や保護者への連絡は、配信内容を学年内で共有したことで指導の差異が減少し、保護者との連携も強化できた。</p> <p>校則等の規則の遵守を継続的に促した。大きく生活の乱れが見られた者はいなかった。</p> <p>朝学習への取り組みが定着した。「すらら」や「天声人語」の効果的利用については、継続検討課題である。</p> <p>教科担当と担任が協力をして月例テストに取り組ませた。優良者は目標数に及ばず、英単語テスト34%(在籍179名中61名)、国語テスト29%(179名中52名)であったが、学習の継続が検定の合格に反映されたと思われる。</p> <p>進路ガイダンスや職業に関するオンライン講演、近代美術館での分散方式の芸術鑑賞、学年主催のミニスポーツフェスティバル等を実施し、学校生活の充実を図るべく、コロナ禍における安全な行事運営を模索している。</p>

2学年	(1) 学校行事や活動を通し、中堅学年としての自覚と責任を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツフェスティバル、撫子祭、修学旅行などの学校行事を通して、連帯感や達成感を体得させる。</li> <li>・生徒会・部活動・委員会活動などで先輩・後輩とのやり取りを通じて、中堅学年としての役割や責任感を育む。</li> </ul>	A	<p>新型コロナウイルスの影響で、学校行事は実施できなかったり規模を縮小しての実施になったが、感染予防に努めつつ行動することができた。生徒会・委員会・部活動でも先輩・後輩とのやり取りを通じて、中堅学年としての役割を十分に果たすことができた。</p>
	(2) 学校生活・社会生活において規律ある態度を養う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誓約書を伴う生徒指導を5名以下にする。</li> <li>・年間5回以上の遅刻者を10回以下にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校則の周知徹底を図る。校則に違反した生徒には個別指導を行う。</li> <li>・制服を正しく着用したり、身だしなみを整えるよう、学年が一丸となって声をかける。</li> <li>・時間を遵守するよう声をかけ、遅刻しないよう指導する。</li> <li>・挨拶を慣行するよう指導する。</li> <li>・欠席・遅刻・早退を減らすよう声かけをする。</li> <li>・学習環境の美化に努めさせる。下校時には、机の中には何も置かないようにする。</li> <li>・掃除の際は必ずエプロンを着用させる。</li> <li>・公共の場で周囲の人の迷惑になる行為（公共交通機関内における通話、座席の占有など）をしないよう指導する。</li> <li>・生活の変化（言動・服装など）に対し、早めに対応する。</li> </ul>	A	<p>今年度より変更になった校則について、周知徹底ができなかったものがあった。今後は着用可能なコートの許容範囲を明確に生徒に伝えられるようにする必要がある。</p> <p>スカートをウエストで折り曲げてはくなど、制服の着用の仕方に乱れが見られた。次年度は最高学年になるため、これまで以上に声かけを行い、下級生の手本となるようにしていきたい。</p> <p>朝の挨拶ができていない生徒が多くいた。挨拶が習慣づくよう、教師が率先して挨拶をしていきたい。</p> <p>清掃時は大方エプロンを着用することができた。</p> <p>公共の場で周囲の人の迷惑になる行為は、個人を注意したものはなかったものの、全体連絡でコンビニエンスストアにおける過ごし方で注意を受けたものがあったので、学年としても生徒に繰り返し声かけ、周りに迷惑をかけるようなことがないようにしていきたい。</p>
	(3) 主体的な学習態度を育成し、基礎学力の向上を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者を学年人数の40%以上にする。</li> <li>・実力診断テスト（1月実施）の学習到達ゾーンD段階の生徒を40%以下にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習を習慣化させる。</li> <li>・具体的な進路目標を設定させ、目標実現に向けた学習をするよう指導する。</li> <li>・進路説明会・進路ガイダンスに積極的に参加させ、また面接指導を通して進路意識を高めさせる。</li> <li>・各種検定試験や校外模擬試験の受験を促す。</li> <li>・臨時休業中には、オンラインのホームルームや授業に参加できるよう働きかける。</li> </ul>	A	<p>臨時休業中は、オンライン授業に生徒はよく参加していた。</p> <p>家庭学習は、キャリア特進や看護科の生徒は比較的習慣付いているが、その他の生徒については、定期試験前のわずかな学習に止まるものが多くあった。次年度は進路決定に向け、継続的な学習をするよう声をかけていきたい。</p> <p>漢字検定や英語検定の合格者はあまり多くなかった。次年度は積極的に検定試験を受験するよう声をかけていきたい。</p> <p>国語テスト・英単語テストの年間成績優秀者数は目標に達しなかったが、次年度はより多くの生徒が成績優秀者になれるよう声かけをしていきたい。</p>
	(4) ICTリテラシーが向上するよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの生徒への諸連絡など、様々な場面にiPadを活用する。</li> </ul>	A	<p>iPadを使用したSHRをするクラスがあったり、Classiを使用して諸連絡をすることが日常的であった。生徒がこれらを使用する際にもICTリテラシーを意識した利用ができるよう指導していきたい。</p>
	(5) 臨時休業中も生徒との関わりを大切にす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話やインターネットを介して生徒と連絡を取り合い、自宅でも充実した学習ができるよう働きかける。</li> </ul>	A	<p>クラス開きがオンラインという異例な年であったが、担任の先生は生徒とSHRや終礼でこまめにやり取りを行った。</p>

3学年	(1) 学校行事や活動を通し、最高学年としての自覚と責任を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツフェスティバル・遠足・撫子祭などの学校行事を通して連帯感や達成感を体得させる。</li> <li>・生徒会、部活動、委員会活動などで、後輩を指導することにより、責任感を養わせる。</li> <li>・朝の立哨指導などで教員の方から挨拶を励行し、卒業後社会で必要な生活習慣を身につけさせる。</li> </ul>	A	<p>コロナ禍の影響で行事や部活動が中止になったり縮小されてしまい、最後の高校生活を十分に謳歌できなかったと思うが、そのような中でも生徒達はよく取り組んだ。</p> <p>朝の立哨指導で生徒の様子を把握することができた。</p>
	(2) 集団生活の中で規律ある態度を養い、社会で通用する人間性を育む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶・言葉遣い・身だしなみ・時間を守る・清掃など、当たり前のことをきちんとできるようにする。特に遅刻については年間5回以上の者を10名以内にする。</li> <li>・制服を正しく着用し、身だしなみを整える。</li> <li>・休業中の生徒との連絡を徹底し把握をする。</li> </ul>	(2) について <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶や言葉遣いを大切にし、正しいコミュニケーションがとれるように指導する。</li> <li>・遅刻カードや個人面談を活用して生徒一人ひとりの生活状態を把握し、規則正しい生活をするための指導をする。</li> <li>・合同HR時(各学期に1回)に服装・頭髪検査を実施し、必要な場合は、担任の指導で修正させ学年主任が確認する。</li> <li>・欠席遅刻などの多い生徒や生活の乱れが目立つ生徒には、保護者との連絡を必ず取りその対応をする。</li> <li>・休業中や自由登校中における生徒の把握を徹底する。</li> </ul>	A	<p>3年生としての自覚が出て、年間を通して遅刻5回以上が6名と目標以内であった。</p> <p>学期ごとの合同HR時に服装検査を実施し全体的に正しい服装を徹底することができた。</p> <p>定期的にClassiを通して生徒へメッセージを配信していたが今後は、全員が読むように徹底させたい。</p>
	(3) 学力の向上をはかり、進路決定を実現させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実力診断テストのGTZのDゾーンからCゾーンへの底上げを図る。</li> <li>・各校内一斉テストの成績優秀者数60名を目指す。(30%以上)</li> <li>・進路決定率100%、大学短大進学率を60%以上を目指す。</li> <li>・休業中の学習の取り組みを徹底させる。</li> </ul>	(3) について <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習や課題などを通して、基礎学力の向上と家庭学習の徹底をはかる。</li> <li>・生徒の進路希望を把握するために、少なくとも各学期1回の個人面談を行う。</li> <li>・推薦・AO入試や就職試験の面接対策として、面接練習を学年の教員全員でおこなう。</li> <li>・進路指導部と連携し、進路に関する最新情報の入手に務める。</li> <li>・進路ガイダンスを行い、生徒の進路意識の向上を図る。</li> <li>・Classi等を介して自宅学習に取り組みさせる。</li> </ul>	A	<p>朝学習については、時事問題などの知識を付けるのに有効であったと思う。</p> <p>進路指導についてもいろいろと入試の変更点があったが、それぞれ対応して取り組むことができた。担任が熱心に対策を立てて面接等を実施することができた。(進路決定率95%)</p>
国語	基礎的な学力を充実させ、表現力・理解力を養わせる。	授業を通して、読む・書く・聞く・話すの学習活動を実践する。	A	<p>グループワーク後の発表・討論、感想鑑賞や要約文のまとめ、単元の関連書籍や短編作品を読み比べるなどの学習を組み入れて授業を実践できた。今後も定期試験の記述問題の増加や、新聞記事・コラムなどの活用方法を国語科全体で検討し、定着・習慣化につなげたい。</p> <p>配信課題への取り組みと対面確認で学習の進捗具合を確認し、生徒のモチベーションを維持する努力をした。ICT機器を利用して自己学習のチェックなど、目の届きにくい学習への継続したサポートができるようにしたい。</p> <p>基礎学力向上に向け、月例国語テストの計画的学習を検定取得や読書指導につなげる努力をした。取り組み方や成果表出の状況は個人差が大きいですが、引き続き丁寧に指導を行っていく。</p> <p>・単元の学習内容や模試の内容に見合う学習動画を厳選したり、デジタル教材の利用研究が今後の課題である。教科内の全員が同じ指導ができるよう、教科内で研修を続けていく必要がある。</p>
	生徒の学力にあった系統的な指導をする。	学年ごとの指導内容を精査し、系統立てた指導をする。単元ごとの内容の理解度を把握するために学習課題ノートやClassiのWebテストを利用する。	A	
	進学・就職の目標を達成させるため、国語テスト等の学習を通して国語力の向上を図る。	国語テスト等の単元ごとの課題提出を行う。Classiやすららを活用させ、自学自習を習慣化させることで、基礎学力の向上を図る。	B	
地歴	時代の流れ・各時代の重要な出来事・重要人物について知る。また、地図を通して基本的な地理的な見方や考え方を身につける。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、DVD映像などの視聴覚教材を利用し知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	A	<p>iPadの利用に関しては、資料の検索を通して、生徒の興味関心を高めることができた。教師が映し出す画像や動画と生徒に検索させるものを明確にし、授業によりメリハリをつけた。</p> <p>Classiなどを利用して、定期的な問題の配信ができた。</p>
	政治的分野・経済的分野・倫理的分野の基礎用語の意味を理解させ、身近な社会との関係について知る。iPad等の情報通信機器を授業中に活用し、効率的な授業展開や生徒の情報活用能力の向上を図る。	ワーク・問題集を購入し、分野別に確認テストを実施する。また、新聞を活用し、時事問題などを取り上げて知識の定着を図る。iPad等情報通信機器を活用した授業を研究し、使用方法について、社会科研修などを通じて、地歴化の中での共有を図る。	A	
公民			A	

数学	学習習慣を定着させる。	すららで家庭学習を行うように促す。 また、すららで定期的に課題を配信し、課題が進んでいない生徒へ担任とともに声かけを行う。	A	A	1年普通科の習熟度別でグループに合わせた授業、すららでの課題配信や学習支援センターの利用を促すなどの目標に対する方策は行えた。来年度の課題としては、すららでの課題の配信タイミングや課題のチェック方法など検討したい。
	基礎学力の向上を図る。	1年普通科は習熟度別でグループの学力に合わせた授業を行う。 学習の理解度を把握し、個々に応じて指導を行い、学習支援センターの利用を促す。 すららで生徒の苦手とする分野の課題を配信する。	A		
理科	論理的思考力を向上させ、科学的な興味関心を高めるとともに、iPadを活用し、Web上の映像と実験を通して、自ら考え、自ら探求する能力を身につけさせる。	・単元毎、または章毎に生徒実験を実施し、実験後は必ずレポートを提出させる。 ・日常生活で利用されているものを教材として多く取り上げ、必要に応じて演示実験やWeb上の映像を活用する。	B	A	密の状態を避けるため十分な実験を行うことはできなかったが、演示実験やインターネット教材を利用し、論理的思考が育成できるように工夫した。シラバスに沿って予定通り教科書の内容については終了でき、必要に応じて試験前などを中心に個別指導も行うことができた。演示実験は各先生方で積極的に行った。教室のICT環境が改善し、各教員ともPC、タブレット端末を使い工夫していた。日常生活と関連した教材は活用することはできており、問題演習・小テストも適宜実施できた。
	シラバスに沿って予定通りに教科書の内容を指導する。問題演習を通し、基礎的知識の定着を図る。	必要に応じて問題演習等の宿題を課し、定期試験の他に小テストなどを行う、また、単元毎にポートフォリオを提出させ、必要に応じて個別指導を行う。	A		
保健体育	運動能力を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わう。また体力の向上をはかり、公正、協力、責任などの態度を身につけさせ、社会生活における健康、安全に理解を深め自らに健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を身につけさせる。	個々の運動能力に合わせ到達技能を設定し、全員がクリア出来るように指導する。	A	A	1・2年生がタブレットを所有したことでダンスと保健の授業ではICTの活用が進んだ。その他の種目でいかにICTの活用ができるかが課題である。保健の授業を通して生涯スポーツにどのようにつながられるかが今後の課題である。
		種目の選択とともに、グループを編成し個々の役割を実践させる。			
芸術	音楽・美術・書道に親しむ活動を通して感性を豊かにし、自己を表現するための基本的能力を伸ばす。	・音楽では鑑賞に加えて楽典や声楽のテストを実施する。 ・美術・書道では基礎的な表現技法を習得させ、鑑賞能力を養うことで創作活動に取り組みさせる。 ・ICT機器を活用し、鑑賞の機会を増やすことで鑑賞力を向上させる。 ・臨時休業期間は、Teamsを利用した実技指導を行う。	A	A	臨時休業中の実技指導では、指導者の模範手法を撮影した動画の配信を行うなど、わかりやすい指導を徹底した。生徒各自がiPadを使用できるので、鑑賞・演奏や表現技法の説明がしやすくなった。芸術科教員による幅広いICT機器の利用の仕方を研修することが必要である。  新型コロナウイルス感染拡大防止のため、校外の展覧会への出品や陳列の機会が減少し、活動が制限された。本校文化祭では、授業時の作品を展示することができた。次年度に実施されることを期待し、生徒の活動の幅が広がった際には対応できるよう準備をしていく。
		・文化祭などの学校行事における発表や、校外の展覧会への出品を通して、積極的に表現活動へ挑戦させる。	B		
外国語	iPadなどICTの活用を伴うライティング力を中心に英語表現力向上を図る	日記活動による「書くこと」の継続的指導をする。	A	A	1年間を通して、学科として協力して指導ができたが、iPadの動作環境が不安定で、指導に不具合がたびたびみられた。以前の指導回数に比べて半減し、量的にも少なくなったことは今後の課題である。  新しい英単語テスト指導内容に変更し、より高い語彙力の向上が期待できる状況になっている。指導方法をさらに検討し、卒業時に十分な語彙力を身につけられるようにしていく。  iPadを用いた英語の授業については、moodleの利用や参考資料や動画の配布など広範囲に渡ってきている。
	基礎力の充実を目的に語彙力の向上を図る	英単語テストを実施する。	A		
	iPadの活用を伴う英語による授業展開方法と方法の研究開発をする。	英語で展開する英語授業の実践とiPadを活用した授業展開の研究を行う。	A		
家庭	基礎学力の向上と、実技における基礎・基本の定着を図る。	生徒の能力に応じた、教材等を探究する。 簡単な学習や実技を繰り返し行い、基礎学力と実技における基礎・基本を定着させる。 生徒が自らの課題について、計画・実践・評価・改善を行う際に、各プロセスにおける指導助言を十分に行う。	A	A	生徒の能力に応じた教材等を探究し、ICTも活用しながら授業を行った。生徒自身の課題について、指導助言を行った。 家庭クラブ活動では、学校全体への周知まで至らなかった。他校の実施内容を参考にしながら、本校の活動を活発にしたい。
	高等学校家庭クラブの活動の充実を図る。	家庭クラブの年間行事予定である、歳末助け合い運動やベルマーク回収、学校ひな祭りを周知し、生徒が主体的に活動できるように、指導助言していく。	B		

情報	<p>自分に必要な情報を正しく読み取り、適切な情報伝達方法と情報発信能力を育てる。また、適切なコンピュータリテラシーを身につけ、情報伝達の方法と情報発信の危険性について意識させ、理解させる。</p>	<p>ワープロソフト・プレゼンテーションソフトを活用し、ひとり1回以上は発表する機会をもつ。</p> <p>SNSなどネットトラブルに巻き込まれないための知識が身に付くように、実技を交えた情報モラル指導を徹底する。</p>	B A	<p>総務省や法務省が作成したYouTube動画を教材にしながら、SNSを利用している人の誰にでも被害に遭う可能性があることを認識させる授業ができた。密の状態を避けるため十分な実習を行うことはできなかったが、タブレット端末を活用した授業はできているので、PCを使えない状況での授業計画を再検討することが今後の課題である。</p>
看護	<p>基礎的な看護技術の定着を目指す。 (放課後の実習室使用率を60%以上に維持する。また、主要基礎技術の確認試験の合格率を100%とする)</p>	<p>放課後実技練習はICTを活用する。 実習室使用許可願の管理・集計をスクールワークで管理できるようにする。 主要基礎技術(ベッドメイキング・全身清拭・足浴・バイタルサイン測定)の確認試験および再試験を実施する。 Classiのアンケート機能を用い授業の理解度を図る。</p>	A	<p>放課後の実技練習は使用率62%と目標を達成し概ね看護技術の定着が図られたと考える。ICTの活用も少しずつ図られ、教員も参加することができるようになってきた。確認試験は全て合格できた。</p>
礼法	<p>小笠原流礼法を通して、家庭や学校、地域など社会との関わりを円滑に出来る生徒を育成する。</p>	<p>礼法研修に積極的に参加し、家庭科教員の意識向上をはかる。学校生活の基本である始業の礼、終業の礼の意味を理解させる。また、日常生活における立ち居振る舞いなど、礼法の基本を理解させる。</p>	A	<p>礼法の教科書を読み、動作等について復習し、常に家庭科教員の意識向上を図っている。今後も、指導方法について情報交換を行い、生徒自身に礼法の基本を理解させられるよう、授業内容について充実を図っていく。</p>
キャリアデザイン	<p>ⅡBの各フィールドにおいて、探究型プログラムを工夫し、実践する。</p> <p>2022年度からの学習指導要領改訂に向けて、IA・ⅡBともに探究型プログラムへの修正を検討し、大枠を決定させる。</p> <p>入試システムの変更に適切に対応し、これまで以上にキャリアで学習したことを進路決定に活かせるよう、担任・学年へのフィードバックを行うとともに、生徒自身が適切に表現できるよう、サポートを徹底する。</p>	<p>・週1回のキャリアデザイン研修時間を確保し、科目、フィールドごとに全員で検討を行う。</p> <p>・外部団体の活動について、積極的に調査、研究を行う。</p> <p>・総合型選抜、学校推薦型選抜に向けて、進路指導部と連携し、教科全員でフォローを行う。</p>	A A A	<p>2020年度からの学習指導要領改訂に向け、検討した探究型プログラムの一部を実践した。実際に行ったことで、より具体的に授業の進め方などイメージできた。</p> <p>キャリアデザインIA・ⅡBとも探究型プログラムの内容を全員で検討し、大枠を決定した。次年度はより具体的に検討、実践し、2022年度の全面的な改訂に向けて準備したい。</p> <p>進路指導部と連携し、必要な生徒に個別に指導を行うことができた。担任の先生が十分に理解できていないため、生徒の活動を調査書・推薦書により良い形で反映できていないことが課題である。</p>